Ｎｏ．２７１【２０１７年８月２５日配信】
野沢地区の葬送儀礼（担当：児玉）

こんにちは。文化財課の児玉です。

お盆が過ぎたらあっという間に秋ですね。お盆は一年の中でもお墓参りをする人が多い時期ですが、青森市の一部の地域では、めずらしい葬送儀礼の風習が今でも残されています。

今回は、私が 15 年ほど前に聞き取りした野沢地区の葬送儀礼の一部について紹介してみたいと思います。

（１）ジトリ（地取り）
まず、葬式の日に「ジトリ」が行われる。ジトリに際し、1m前後の棒を５本用意し、方形になるよう隅に４本、その中央に１本立て、それぞれの棒に餅を刺す。この餅を「ジワリモチ（地割り餅）」といい、中央の棒の餅を二人の男（近親者）が背中合わせになって、自分の利き手とは逆の手で引っ張り合ってちぎり取る。それを振り向かずに後方へ投げる。投げた餅が遠いほど、あの世で広い敷地が得られると考えられている。
なお、四隅の餅は、遺族や親族などにより、手を後にして口だけを使って食べる。

（２）埋葬
その後、埋葬を行う。穴掘りは集落の共同作業として行われることが多く、冬場では１ｍ以上もの積雪を掘ってから地面を掘る。土葬の頃には、盛りあがった土の上に、河原石を載せる。１個か２個置くタイプと積石タイプの二者が多くみられる。墓標（はかじるし）として載せているが、狸などに荒らされないようにする為のものだともいう。

（３）サンキ
埋葬を終えると、土盛り付近に木の棒を三本立てて、上部を一緒に結んでムシロなどを掛け、手前を開いた三角錐の小屋を作る。この墓上施設のことを「サンキ（三木）」という。
サンキの上部には、魔よけのため農具の鎌を取りつける。墓参りは「ミナノカ（三七日＝3 週間）」の間毎夕行われ、それが過ぎるとサンキは焼かれてしまう。

以上に記載した地割り餅やサンキの風習については、平成 20 年（2008）3 月に刊行された『新青森市史　別編３　民俗』にも紹介されています。「地割り餅」は、安田や新城などでは「屋敷餅」、荒川では「陣取り餅」、清水では「うしろ餅」とも呼ばれています。また、サンキについては、県外ではサンギチョウ（岩手県・宮城県）、サギッチョ（福島県）、三曲り（秋田県）などと呼ばれ、東北地方に分布していることがわかります。